

	課題分析	授業改善策
1年	・お話をいくつかのまとまりに分けて読むことができない。 ・お話の中で、自分の好きな文章や絵を見付けることが難しい。 ・登場人物の気持ちや様子を読み取ることが難しい児童が多い。	➡毎時間、学習した場面の中で好きな部分を考えさせる場を設定する。 ➡初めて出会う言葉や文章表現について、話し合わせる活動や動作化する活動を多く取り入れ、語彙力を広げる。
2年	・技能面でも思考面でも、個別指導が必要な児童が多い。 ・読み聞かせは好きだが、自分自身で長文を読むことを苦手としている。 ・自分の思いや考えを、言葉でアウトプットすることに課題がある。 ・語彙が少ないので感想などの表現がワンパターンになりがちである。	➡習熟度別ワークシートの作成、発問の精選、板書や掲示物の工夫等により、個別指導が必要な児童が自分で取り組める環境を整える。 ➡自分で本を選び、読む機会を多く設定する。（図書・並行読書・団体貸出の利用等） ➡少人数での対話方式で考えを伝え合ったり、考えを書いてまとめたりする機会を増やす。 ➡授業で言葉を取り上げて説明したり、教科書巻末の「ことばのたからばこ」を活用したりする。
3年	・長い文章を自分で読み取ろうとする気持ちが弱く、物語文の読み取りへの意欲が低い。 ・物語の文に出てくる言葉の意味を知らないことが多かったり、語彙が少ないために言葉で適切に読み取ったことを伝えたりすることが難しい。 ・物語文に限らず、課題に対して、自分の考えをもつことが苦手な様子が見られる。	➡本格的な学習に入る前に家庭で繰り返し音読させ、文章を読むことに慣れさせる。授業では、場面のつながりを意識しながら、場面ごとに丁寧に読み取らせる。 ➡子供たちの語彙力を広げる指導を行う。 ➡スピーチ、対話、少人数グループでの話し合い活動などを意図的に取り入れ、話し方を指導する。
4年	・登場人物の心情やその変化を読み取ることへの困難さが見られる。 ・文章を書くときに、順序を表す言葉や接続詞の語彙が少なく、パターン化された文章しか書くことができない。	➡課題に対して自分の考えを言語化したり、友達の考えを知ったりする活動を意図的に多く取り入れる。共同的な学習を推進し、自分の考えの視野を広げる。 ➡スピーチ、対話、少人数グループでの話し合い活動をさまざまな教科の学習で意図的に取り入れ、話し方を提示しながら指導を重ねていく。
5年	・物語が長くなるほど内容を正しく読めず、意欲も低下する児童が一定数いる。 ・叙述を基に登場人物の心情を考えようとはするが、語彙が少ないために適切な言葉で表現することが難しい児童が一定数いる。	➡初発の感想を丁寧に分析し、誤読している部分は授業展開に生かしていく。また、疑問に思ったことは話合いの問いとして、みんなで考えられるようにする。 ➡心情を考えたり話し合ったりする場面で、「言葉のたから箱」を活用し、使える語彙を増やしていく。
6年	・物語の読み取りの学習で、叙述表現をもとに自分の考えを話すことに自信がもてない児童がいる。 ・語句の意味や使い方への理解が低く、文章を正しく読むことを苦手とする児童が一定数いる。	➡物語教材の多角的な教材分析を行い、登場人物の心情が大きく変化する場面（山場）を、叙述表現をもとに読み取る力を育てる。 ➡読書や朗読などを行う際に、意味を調べたり語彙を広げたりする活動を設定することで、様々な語句を使って表現できるようにする。
専科	・前向きに自分の思いをもちながら創作活動をしているが、さらにイメージを深めたり、作品について言葉で表現したりする場面で滞る児童がいる。〔図工〕	➡視覚的な資料の提示や鑑賞活動の工夫をする。文章で自分の思いを表現する場合は、作品について物語を考えるように促し、考えを深めながら表現できるようにする。〔図工〕